

マーケティングの出番ですか？

第31回 「時空を超えて現代に蘇る漢字(古代文字)のストーリーとデザイン」-福島県喜多方市のある書家の取り組み

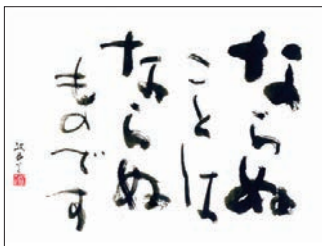
池山悦朗 エンピツ・グラフィックス代表

「マーケティングの出番ですか？」と題して、主に、モノづくり企業で製品開発、生産に従事される技術者の方々を対象に、お仕事に“役立つ”、“必要な”、そして“面白い”マーケティング関連情報、知識、事例、最新トピック等を幅広くご紹介させていただきます。

前回に引き続き、ストーリーのあるデザインについて、グラフィックデザイナーである筆者が強い影響を受けた人物のお話しをします。

■書家ではなく樂篆家(らくてんか)との出会い

数年前に、あるきっかけから、蔵とラーメンで有名な福島県の喜多方市を拠点にご活躍されている、高橋政巳(たかはしまさみ)氏という、書家にお会いすることができました。氏は、自らを「書家」ではなく「樂篆家(らくてんか)」と名乗られ、魅力的な漢字や古代文字の書を用いた様々なご活動をされておられた方です。



最初の出会いは、高橋先生の作で、会津喜多方のある清酒メーカーの日本酒のラベルになった「ならぬことはならぬものです」という、会津藩士の「什の掟(じゅうのおきて)」の書を見た時です。それを見た瞬間、思わず一文字一文字から伝わる味わい深さや秘められたやさしさ、そして何よりもデザインとして優れた文字であることに感動しました。



高橋先生は、書画展の審査員を始め、ご講演、小学校での特別授業、そして作品制作などご多忙を極められる一方で、喜多方市内にある樂篆工房というご自身のギャラリーと店舗を兼ねた工房では、来訪者ひとりひとりのお名前を短冊に書かれ、その漢字の由縁もお話してプレゼントされるという、漢字、古代文字を通じた心の触れ合いを大切にされていました。その数は、工房の来訪者、講演やイベント会場での来場者を合わせると20万件を超える聞いています。

高橋先生は、この他にも蔵とラーメンのイメージだった喜多方に、新たに「漢字のまち喜多方」という魅力的なコンテンツを創造し、文化的、教育的視点からの街おこしにもご尽力されました。

例えば、今、喜多方市の中心街を歩けば、店の軒先に、高橋先生が古代文字で書かれた桐の板の看板が目にとまります。その数は200軒を越え、街道の散策路に沿った蔵や古民家の佇まいをいっそう味わい深いものにしています。他のまちでは見



られない、喜多方だけの手づくりのまちのサインと言ってもいいでしょう。

■漢字は楽しい

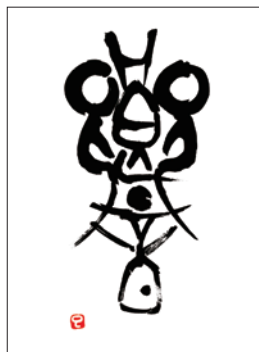
筆者は、以前は漢字にあまり興味がありませんでしたが、高橋先生の書かれる(描かれる?)温かくて、時にはユーモラスな表情の、まるで絵画の様な書に会ってから、そのデザイン性とストーリー性に新たな感動を受けるようになりました。

高橋先生ご自身が一番好きだという『響』という漢字の意味を、以下のように説かれておられます。

- 『響』は『郷+音』で成り立っています。
- 『郷』は、食事が置かれたテーブルを挟んで二人の人が向き合って、会話をしながら、楽しく食事をする様子を表している。
- 『郷』は、『故郷』とか『場所』とかいう意味合いで使うことが多いが、もとは、いろんな文化や思いを分かち合う単位を抽象的に表したものです。
- この『郷』に『音』が付いたのが『響』。ご馳走と一緒に食べ、会話を交わすことで『心が伝わる』という意味を持つ。
- つまり、生の基本的な行為である『食』を通じ、相手を知り自分を伝えるコミュニケーションの根本を表した字なのである。

心と心が響き合うにはおいしい食事を一緒にするのが一番。二人の人が、ご馳走のおかれているテーブルを挟み、向き合って一緒に食べ、いろいろな会話を交わしている情景。そうすることで相手を知り、自分を伝えているコミュニケーションの根本を表している字。(以上、高橋先生の解説より抜粋)

思わず、「そうだったのか!？」と納得させられるストーリー。そのストーリーが、3000年以上も遡った時代から、この『響』というたったひとつの文字というデザインに込められて、それが現代社会にも息づいている



という。いや、ひょっとして忘れていた大切なものを思い出させてくれているのかも知れません。過去から現在、そして未来にも脈々と伝承される壮大な時空を超えたストーリーに、不思議な時間旅行を体験したような気がしました。

■ 楽家は時を超えた偉大なコミュニケーションデザイナー

高橋先生の頭の中には、このような漢字の意味、由縁が全て網羅され、それらが組み合わせられた名前の意味さえその場で図解できるという、膨大なデータが蓄積されていたということです。ある中国人のアーティストから言われたそうですが、「あなたは日本人なのに、なぜ中国人よりも漢字に詳しいのか？」と。

書家の大先生を勝手にデザイナーに例えるのは、誠に僭越な話ではありますが、私の目に映る先生の書は、優れたグラフィックデザインであり、且つストーリー性に満ちた豊かなコミュニケーションデザインそのものでした。

と、ここまで、高橋先生のことを過去形で書いたことに違和感を持たれた読者もいらっしゃると思いますが、実は、そんな先生の訃報が届いたのは、2015年11月のことでした。本当にこれから一緒にお仕事をさせていただこうと矢先でしたので、悔しい気持ちで一杯でしたが、先生ご本人が一番無念であったと思います。先生の遺志を継いで、何かを伝えていかなければならないと思っています。

読者の皆様で、漢字や古代文字に少しでもご興味を持たれたなら、是非一度、「漢字のまち喜多方」を訪れてください。最近、古代文字の看板をコンテンツとしたミステリーツアー等も人気を博しています。

グローバル化が叫ばれる中、高橋先生が育まれた、このような地域（ローカル）を活性化する独自の文化的な

コンテンツが日本各地に生まれ、外国からのインバウンドを招き入れる契機になれば、真の意味のグローバルなコミュニケーションを促進すると思われます。そして、標準化されて行くグローバルマーケティングと、個性が売りとなるローカルマーケティングとのうまい接点で、新しいマーケットを創造する予感がします。

(参考文献)

「漢字の気持ち」 高橋政巳・伊東ひとみ著 新潮文庫

「感じの漢字」 高橋政巳著 扶桑社



池山悦朗(デザイナー)

エンピツ・グラフィックス代表
http://enpitsu-graphics.com

1958年生まれ 出身：京都府 桑沢デザイン研究所
リングデザイン研究科D専攻卒業 (株) 本田技術研究所、ゼロワンデザイン (株)、日産自動車 (株) にて、30余年に渡り、先行開発、デザイン企画・調査・戦略・広報など様々な分野のデザインに従事
趣味：ギター・妄想・宅録

<受賞歴> ・グッドデザイン賞 2007 / 2013 ・JCD 2007デザインアワード銀賞 ・朝日新聞 2014創作時事用語コンテスト審査員特別賞「みうらじゅん賞」



BREAK WORKSHOP

貴社の課題解決に「ワークショップ」という解答!

robobakkon は、創造性に富む「プロダクトデザイン」、価値を築く「コンセプト開発」、そして組織を革新する「ビジネスモデリング」まで一貫性ある3つのワークショップをご提供します。

製品のインテリジェント化 (AI)、自動化 (IOT)、ロボット化等、貴社の様々な課題の解決を、ワークショップを通じて導き出します。

「デザイン思考」の顧客視点

「インダストリー 4.0」の製品パーソナライズ化

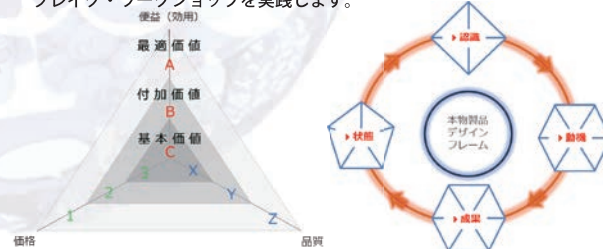
事業モデルの「エコシステム」化

ブレイク・ワークショップは、製品開発、事業開発に必要な知識と創造スキルの習得、そして新しい企業文化の醸成を支援します。

一貫性あるコースプログラム	
コース	演習内容 (例)
● プロダクトデザイン	アイデアブレスト (カード作成) & 分類 アイデアの評価・選択 ペルソナ (想定ユーザ) の定義 ユーザ体験ストーリーの作成
● コンセプト開発	ユーザ体験の収集 (作成) & 集約 真のニーズ分析評価・抽出 コンセプト (ユーザ価値) の定義 コンセプト・シナリオの作成
● ビジネスモデリング	事業課題の洗い出し & 分析 事業革新案の検討・評価 事業モデルの定義 事業展開構想の作成

実践形式

- ファシリエータによるガイド・成果物作成支援・フィードバック
- 4~5名 / 1チームのグループ形式 ※最大4チーム
- 複数回に分割した演習方式 ※「思考を寝かせる」時間確保
貴社の課題を演習テーマに各コースプログラムをカスタマイズし最適なブレイク・ワークショップを実践します。



http://robobakkon.jp

テンブロクシー 〒153-0065 東京都目黒区中町 2丁目 50番 13 ザ・ビーク 4F 号
ウェルコインターナショナル 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-10-9 原宿重友ビル 8F

Tel. 03-6412-8780 info@robobakkon.jp
Tel. 03-6418-5519 info@wellco.org

資料請求番号 11609-05701